

第4期総会 シンポジウム開催案内

経済不安が続く中、銀座も青山も、低価格店が立ち並ぶ街へと変貌しつつある。そんな中、2009年の夏は都市熱の抑制の工夫であった緑のカーテンが各所で大人気となり、実ったものは各家庭の食卓を飾ったようだ。不景気な時代だからこそ、人々の間では楽しく環境を考え、自分たちが住むまちの景観にも関心を持ち貢献する活動が広まって来ているといえるだろう。また各地で農業にも関心が高まり、農の風景を考える動きも大きく取り上げられるようになってきている。

TDAでは、まちやひとが元気になる景観を考え、創りだしていく活動を支援していく為に、専門分野の方々からの協力を得ながら景観講座や課題研究に取り組んできた。

今回のシンポジウムではデジタルハリウッドの杉山学長と多摩美術大学教授 堀内正弘氏を迎えて、幅広い視点から景観を巡るお話を伺うこととしたい。

2009年10月31日（土）

株式会社コトブキ D. I. センター

15:00～17:30（開場14:45）

ー変化する社会と景観ー

■ 基調講演

『ソーシャルメディア革命と都市景観』

杉山知之氏

デジタルハリウッド大学学長デジタルハリウッド学校長 1954年生まれ



87年よりMITメディア・ラボ客員研究員。90年国際メディア研究財団・主任研究員、93年 日本大学短期大学部、工学博士

マルチメディア放送ビジネスフォーラム代表、福岡コンテンツ産業拠点推進会議会長「新日本様式」協議会、CG-ARTS協会、デジタルコンテンツ協会など多くの委員を歴任。99年度デジタルメディア協会AMDアワード・功労賞受賞。

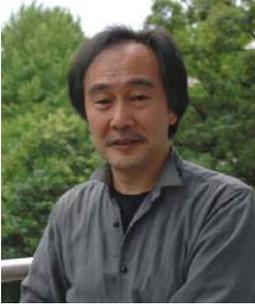
著書「クール・ジャパン 世界が買いたがる日本」（祥伝社）、「クリエイター・スピリットとは何か？」※最新刊（ちくまプリマー新書）他

■ トークイベント ゲストスピーカー

『市民と専門家との新たな関係性』

堀内正弘氏

多摩美術大学造形表現学部デザイン学科 教授 1954 年生まれ



東京芸術大学・美術学部・建築学科、東京大学・工学系研究科・建築学、イエール大学・建築学大学院・建築学ポストプロフェッショナル終了後磯崎 新アトリエ、エドワード・ララビー・バーンズ事務所（ニューヨーク）を経て堀内正弘建築設計事務所 建築・都市計画を設立後、(株)アーキソフト計画研究所さらに(株)都市工房を設立

NPO土とみどりを守る会代表理事

アーバンエコロジー東京 共同代表

建築設計、景観計画、各種協定の策定、地域計画等の実践経験を生かし、現在は NPO や大学の主導による良好な地域環境の形成に取り組む。

日本感性工学会賞、公共の色彩賞、グッドデザイン賞、ストップ温暖化大作戦東京グランプリ、同全国大会 モーダルソフト賞、他受賞

■コーディネーター

高見公雄氏

法政大学都市環境デザイン工学科教授

1955 年生まれ

東京芸術大学美術学部建築科卒業、東京芸術大学大学院美術研究科（建築設計専攻）修了

株式会社日本都市総合研究所代表取締役

社団法人日本都市計画学会評議員

「日本の都市環境デザイン」「日本の街を美しくする」 「中心市街地活性化辞典」編集責任、学芸出版社